

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
分担研究報告書 R6 年度

ICD-11 の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究
「全国がん登録データを用いた ICD-11 適用によるがん罹患集計への影響の検討」

研究分担者 奥山 絢子 聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授
研究協力者 寺本 典弘 四国がんセンター病理科・がん予防疫学研究部 部長

研究要旨

国際疾病分類第 11 回改訂版 (ICD-11) は、2019 年の世界保健総会で採択され、2022 年 1 月に発効となった。本研究では、ICD-11 に準拠した新死因分類案に沿って、がん罹患集計を行った場合にこれまでの ICD-10 準拠による集計と比較し、どの程度集計値に増減があるかを明らかにすることを目的とした。結果、悪性新生物に限定されない「脳又は中枢神経系の新生物 2A00-2A0Z」は従来の悪性新生物に限定した「脳・中枢神経系 C70-C72」と比較し、見かけ上 4.0 倍罹患数が増加することがわかった。また、疾患概念が変更となった「リンパ系新生物 2A70-2B2Z、2B30、2B32」、「骨髄系新生物 2A20-2A4Z、2A60」、及び「その他造血組織又はリンパ組織の新生物 2A50-2A5Z、2A61、2B31、2B33、2B3Z」に関しては、従来の集計分類と単純に比較することは難しいが、悪性に限定されないことで、造血器腫瘍全体の値は 19%以上集計値が増加する可能性が示唆された。さらに「腎又は腎盂の悪性新生物 2C90-2C91」に尿路等の悪性新生物が含まれなくなったため、従来の「腎・尿路(膀胱を除く) C64-C66,C68」と比較して、15%程度集計値の減少を認めた。その他、集計項目によって若干集計範囲が異なる項目もあるが、集計値に大きな増減は認めなかった。

A. 研究目的

本研究では、ICD-11 適用によるがん罹患集計への影響を評価するために、2024 年度本研究班にて検討した ICD-11 準拠の新死因分類案に沿ってがん登録罹患集計分類を作成し、従来の集計値との増減を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

本研究では、情報源として本研究開始時点で利用できる最新の全国がん登録情報で

ある 2020 年診断例を用いた。がん登録では、International Classification of Diseases for Oncology、3rd Edition (ICD-O3) を用いて、がんの発生した部位と組織形態に分けてがんを登録している。これまで全国がん登録罹患集計では、死因統計との比較可能性を担保するために、登録された ICD-O3 から ICD-10 へと変換し、がん罹患集計を行ってきた。ICD-O3 から ICD-10 への変換は、国際がん登録協議会 (International Association of Cancer

Registries, IACR) と World Health Organization (WHO) International Agency for Research on Cancer, IARC)が整備し、米国 National Cancer Institute 等で電子媒体の形で配布されている変換表が用いられている。本分析では、国立がん研究センターにおいて ICD-O3 から ICD-10 へと変換された ICD-10 情報を、2025 年 1 月に WHO が公開した ICD-10 から ICD-11 へ変換する 1 対 1 対応表を用いて変換し分析を行った。2024 年度本研究班にて検討した ICD-11 準拠の新死因分類案に沿ってがん罹患集計用分類を作成し、従来の ICD-10 準拠で集計した集計値(基本分類 A 表と基本分類 B 表)との比較を行った。既存の全国がん登録罹患集計における分類と新死因分類案においてがんの集計範囲が異なる項目に関しては、集計値の差異を比較できるように別途項目を立てて値を算出した。脳又は中枢神経系の新生物と造血器腫瘍に関しては、悪性新生物と良性等の新生物を含めた分類となった(表 1)。造血器腫瘍は、従来の ICD-10 準拠の集計では「悪性リンパ腫 C81-C85、C96」「白血病 C91-C95」「多発性骨髄腫 C88、C90」に分類されていたが、ICD-11 では疾患分類の体系が大きく変わり「骨髄系新生物 2A20-2A4Z、2A60」「リンパ系新生物 2A70-2B2Z、2B30、2B32」「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物 2A50-2A5Z、2A61、2B31、2B33、2B3Z」に分類が変わった。そのため、ICD-10 準拠の集計と ICD-11 準拠の集計との対応表を別途作成した。がん罹患集計用分類の作成においては、WHO の Mortality (死因) リストと Morbidity (疾病) リストを参照して項目を整理した。2025 年の WHO の Mortality と Morbidity リストを見ると、同じ ICD-11 のコードであっても分類が異

なる項目がある(表 2)。WHO の 2025 年 1 月版の ICD-10 から ICD-11 の 1 対 1 対応表において Mortality と Morbidity リストで分類に差があるものを表 3 に示す。これらの項目について、WHO の Mortality リストに沿って分類した場合と、Morbidity リストに沿って分類した場合の集計値を算出した。

(倫理面への配慮)

本研究は、学校法人聖路加国際大学研究倫理審査委員会(23-AC085)の承認を得て行った。また、全国がん登録のデータ利用にあたっては、がん登録の推進等に関する法律に基づきがん登録情報の提供を受け(提供番号:A2024-0043)、独自に集計を行った。

C. 研究結果

従来の ICD-10 準拠での集計値と ICD-11 に準拠した新死因分類案に沿ったがん罹患集計の結果を表 3 に示す。従来の悪性新生物(基本分類 A 表)の「脳・中枢神経系 C70-C72」と比較すると、「脳又は中枢神経系の新生物」の集計値は、見かけ上約 4 倍に増加した。また、造血器腫瘍に関して、従来の「悪性リンパ腫」「白血病」「多発性骨髄腫」と新しい「骨髄系新生物」「リンパ系新生物」「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」との集計値の対応をみると、「悪性リンパ腫」の 86.1%が「リンパ系新生物」に分類され、残りの 13.9%が「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」に分類された(表 4)。「多発性骨髄腫」はすべて「リンパ系新生物」に分類され、「白血病」の 60.2%が「骨髄系新生物」、23.5%が「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」、16.2%が「リンパ系新生物」

に分類された。また、これまで基本分類 A には含まれていない「骨髓異形成症候群 D46」の 9924 件や「慢性骨髓増殖性疾患 D471」の 741 件が骨髓系新生物に含まれることになった。さらに、「リンパ組織、造血組織及び関連組織の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>、詳細不明 D479」289 件や「リンパ組織、造血組織及び関連組織の性状不詳又は不明のその他の明示された新生物<腫瘍>D477」102 件、「その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>、脾 C261」17 件が「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」に分類された。その結果、「骨髓系新生物」「リンパ系新生物」「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」を合わせた造血器腫瘍全体としての集計値は従来の「悪性リンパ腫」「多発性骨髄腫」「白血病」を合算した数値よりも 19.3% 増加した。こうした良性等の新生物を含めて、がん（全部位）全体の罹患数を集計した場合、従来の基本分類 A 表の全部位あるいは基本分類 B 表の全部位の罹患数と比較して、集計値はそれぞれ 2.9%、2.6% 増加した。

ICD-11 準拠の新死因分類案では、「大腸、肛門又は肛門管の悪性新生物 2B90-2C00」として項目が立てられており、大腸の項目に肛門と肛門管の悪性新生物が追加となり、虫垂の悪性新生物はこの分類項目から外れた。こうした変更から「大腸、肛門又は肛門管の悪性新生物」の集計値は、従来の基本分類 A 表における「大腸 C18-C20」とは集計しているがんの範囲が異なるものの集計値は、従来の「大腸」と比較して、0.2% の減少であった。また、「結腸の悪性新生物」をみると虫垂の悪性新生物が分類から外れたことで、従来の「結腸 C18」の集計値と比較すると、1.4% の減少を認めた。同様に

「肝臓又は肝内胆管の悪性新生物」では、肝臓の肉腫は別分類となった。そのため「肝臓又は肝内胆管の悪性新生物」の集計値は従来の「肝・肝内胆管 C22」と比較すると 0.3% の減少を認めた。さらに、「腎・尿路（膀胱除く）C64-C66,C68」は、ICD-11 準拠の分類案では「腎又は腎盂の悪性新生物 2C90-2C91」となり、尿管や尿路の悪性新生物はこの項目に含まれなくなった。そのため、従来の「腎・尿路（膀胱除く）」と比較すると、15.2% の集計値の減少を認めた。

全国がん登録罹患集計では、基本分類 B 表として、悪性新生物に上皮内がんを含めたがん罹患数の集計を行ってきた。ICD-11 準拠の分類案では、上述のとおり「大腸、肛門又は肛門管の悪性新生物（上皮内がんを含む）」に、肛門又は肛門管の悪性新生物と上皮内がんが含まれるようになったが、虫垂の悪性新生物が含まれていないことから、従来の基本分類 B 表の「大腸 C18-C20, D010-D012」と比較して、集計値が 0.7% 減少した。同様に、「結腸の悪性新生物（上皮内がんを含む）」では、虫垂の悪性新生物が含まれていないため、従来の「結腸 C18,D010」と比較して、1.1% の減少を認めた。

WHO の Mortality リストと Morbidity リストで分類が異なるものについて、2020 年診断例を分析した結果、該当する ICD-10 コードが付与された登録はなかった。

WHO の 2025 年の ICD-10 から ICD-11 への対応表において、ICD-11 への分類案が示されていない「細胞型不明のその他の白血病 C957」の登録は今回用いたデータでは、登録数は 0 件であった。基本分類 A 表、B 表で集計されている項目ではないが、

e-Stat で公開されている 122 部位のなかで「内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>、下垂体 D443」339 件、「内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>、頭蓋咽頭管 D444」276 件、「内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>、松果体 D445」48 件については、ICD-10 情報から ICD-11 への変換は示されておらず、再分類ができなかった。さらに、ICD-10 の 2013 年版から除外された「小細胞及び大細胞混合型(びまん性) C83.2」「免疫芽球型(びまん性) C83.4」「アルファ H<重>鎖病 C88.1」「悪性組織球症<malignant histiocytosis> C96.1」「真性組織球性リンパ腫 C96.3」といった登録が合わせて 62 件あった。

D. 考察

ICD-10 では、項目(章)全体が悪性・上皮内・良性などに大きく分かれていた。しかし、ICD-11 ではこれを引き継ぎながらも、「脳又は中枢神経系の新生物」と「骨髄系新生物」「リンパ系新生物」「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」はこの枠組みから除かれ、悪性だけでなく良性等の新生物を含めた分類となった。その結果、悪性新生物に限定されない「脳又は中枢神経系の新生物」では、従来の悪性に限定した「脳・中枢神経系 C70-C72」と比較し、集計値は見かけ上約 4 倍に増える可能性が示唆された。集計値が増加した要因は、従来の全国がん登録罹患集計における基本分類 A 表の悪性新生物の「脳・中枢神経系 C70-C72」に、e-Stat で公開されている 122 部位別集計の「髄膜 D32」「脳・中枢神経系 D33」「髄膜 D42」「脳・中枢神経系 D43」のいわゆる良性新生物と性状不詳又は不明の新生物が合算されたためである。さらに、

分類が大きく変化した造血器腫瘍の集計値を単純に比較することは難しいが、従来の悪性新生物に限定されている「悪性リンパ腫」「多発性骨髄腫」「白血病」の総数よりも、「骨髄系新生物」「リンパ系新生物」「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」の総数は、19%以上増加する可能性が示唆された。造血器腫瘍に関しては、表 1 に示すように、現在登録や集計対象となっていないがんも同項目に分類されるようになった。がん登録では、原則として原発性の悪性新生物とその他の政令で定める疾病ががん登録の届出対象とされている。そのため髄膜又は脳、脊髄、脳神経その他の中枢神経系に発生した腫瘍と卵巣腫瘍や消化管間質腫瘍など一部のがんを除き、良性の新生物や性状不詳の新生物は現在がん登録の届出対象ではない。今後がん登録における登録対象となるがんの範囲の見直し等により現在登録されていないがんを含めて登録され集計されることで、さらに罹患数が増える可能性がある。

脳又は中枢神経系と造血器腫瘍の良性等の新生物を含めて、がん(全部位)の罹患数を算出した場合、これまでの悪性新生物に限定した基本分類 A 表と上皮内がんを含む B 表の全部位と比較して、それぞれ 2.9%、2.6%集計値が増加した。上述のとおり、がん登録の範囲が見直されることでさらに集計値が増加する可能性がある。こうした変動は、がんの罹患数が増加したわけではなく、登録や集計対象の範囲の違いによる。ICD-11 準拠でがん罹患集計を公表する場合には、国民に誤解がないように説明する必要がある。

これまで「腎・尿路(膀胱除く) C64-C66,C68」で集計されてきたが、ICD-11 準拠では腎と腎盂の悪性新生物に

分類範囲が限定されたことにより、「腎又は腎盂の悪性新生物」の集計は従来の「腎・尿路(膀胱除く)」より15%程度減少した。一方で、「大腸、肛門又は肛門管の悪性新生物」「肝臓又は肝内胆管の悪性新生物」については、従来の基本分類 A 表の「大腸 C18-C20」、「肝・肝内胆管 C22」とは集計するがんの範囲が異なっているが、集計値はほとんど変化がなかった。

本研究には、いくつかの限界がある。本研究では、従来の全国がん登録罹患集計の基本分類 A 表と B 表の集計項目について、総数と性別ごとに集計値を比較した。がんの罹患率は、年齢によって異なる。今後年齢階級別にみた場合にどの程度集計値が変動する可能性があるか検討する必要がある。また、本研究では2025年1月に公表されたWHOのICD-10からICD-11への1対1対応表を用いた。がんによっては1対1対応ではなく、1対多対応となるものもある。今後、WHOのICD-10からICD-11の1対多対応の対応表を用いて再分類した場合の集計値への影響について別途検討する必要がある。さらに、ICD-11では造血器腫瘍について、悪性新生物に限定されない分類となった。これにより今後がん登録の届出対象の範囲が変更となった場合には、さらに集計値が増加する可能性がある。最後に、本研究では国立がん研究センターで変換されたICD-10情報を用いた。その中に、2013年版のICD-10から削除された項目が含まれていた。これらの登録がICD-11のどの項目に分類できるかまでは十分検討できていない。本研究では、研究班で検討したICD-11準拠の新死因分類案をもとにがん罹患集計用の分類案を作成し検討を行った。死因分類案は、厚生労働省等で現在も検討が進められている。これら

の検討結果を踏まえ、最終的な新死因分類案での集計値の変動を今後検討する必要がある。

E. 結論

ICD-11 準拠の新死因分類案に基づくがん罹患集計用分類と従来の全国がん登録罹患集計基本分類 A 表と B 表の項目における集計値を比較したところ、悪性新生物に限定されない「脳又は中枢神経系の新生物」や造血器腫瘍において、従来の集計値と比較して、「脳又は中枢神経系の新生物」は約4倍、造血器腫瘍は集計項目全体で19%以上集計値が増加する可能性が示唆された。また、「腎又は腎盂の悪性新生物」に尿路等の悪性新生物が含まれなくなったため、従来の「腎・尿路(膀胱除く)」と比較して15%程度罹患数が減少する可能性が示唆された。こうした値の変動は、集計分類案の変更によるものでありがんそのものが増えたわけではない。ICD-11 準拠でのがん罹患集計を公表する際には、国民に誤解のないようにこれらの集計結果を伝えていく必要がある。その他「大腸、肛門又は肛門管の悪性新生物」や「肝臓又は肝内胆管の悪性新生物」は、従来の集計範囲と異なるものの集計値の変動はほとんどなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

奥山絢子, 東尚弘, 林玲子. ICD-11 適用に向けたがん罹患集計における課題の整理: 文献調査, 第83回日本公衆衛生学会 2024年10月29日

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。

表 1. ICD-11 で脳又は中枢神経系の新生物、骨髄系新生物、リンパ系新生物、その他の造血組織又はリンパ組織の新生物に該当する ICD-10 コード

	ICD-10 コード
脳又は中枢神経系新生物	C70, C700, C701, C709, C71, C710, C711, C712, C713, C714, C715, C716, C717, C718, C719, C72, C720, C721, C722, C723, C724, C725, C728, C729, D32, D320, D321, D329, D33, D330, D331, D332, D333, D334, D337, D339, D42, D420, D421, D429, D43, D430, D431, D432, D433, D434, D437, D439
骨髄系新生物	C864, C920, C921, C922, C923, C924, C925, C926, C928, C930, C931, C933, C940, C942, C943, C944, C946, C962, D45, D46, D460, D461, D462, D464, D465, D466, D467, D469, D471, D474, D475
リンパ系新生物	C81, C810, C811, C812, C813, C814, C817, C819, C82, C820, C821, C822, C823, C824, C825, C826, C827, C829, C83, C830, C831, C833, C835, C837, C838, C839, C84, C840, C841, C844, C845, C846, C847, C848, C849, C85, C851, C852, C860, C861, C862, C863, C865, C866, C88, C880, C882, C883, C884, C887, C889, C90, C900, C901, C902, C903, C911, C913, C914, C915, C916, C918, C960*, C964*, C965*, C966*, C968*, D470*, D472
その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	C261, C857, C859, C86, C91, C910, C917, C919, C92, C927, C929, C93, C937, C939, C94, C947, C95, C950, C951, C959, C96, C967, C969, D47, D477, D479

下線は、従来のがん登録罹患集計（基本分類 A 表、B 表および e-Stat の 122 部位）の集計項目に含まれていないコード

* WHO の Mortality リストでリンパ系新生物に含まれるが、WHO の Morbidity リストでその他の造血組織又はリンパ組織の新生物に含まれるもの

表 2. WHO の Mortality リストと Morbidity リストにおける分類の差異

ICD11	ICD11 名称	WHO Mortality リストの分類	WHO Morbidity リストの分類
2A50	PDGFRA 再構成を伴う骨髄系／リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	骨髄系新生物
2A51	PDGFRB 再構成を伴う骨髄系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	骨髄系新生物
2A52	FGFR1 異常を伴う骨髄系又はリンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	骨髄系新生物
2A5Z	好酸球増加及び PDGFRA、PDGFRB 又は FGFR1 異常を伴う骨髄系及びリンパ系新生物、詳細不明	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	骨髄系新生物
2B31	組織球又は樹状細胞新生物	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.0	若年性黄色肉芽腫	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.1	組織球性肉腫	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.2	ランゲルハンス細胞組織球症	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.20	皮膚に影響を及ぼすランゲルハンス細胞組織球症	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.2Y	その他の明示されたランゲルハンス細胞組織球症	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.3	ランゲルハンス細胞肉腫	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.4	指状嵌入樹状細胞肉腫	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.5	濾胞性樹状細胞肉腫	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.6	不定細胞組織球症	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.7	線維芽細胞性細網細胞腫瘍	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.Y	その他の明示された組織球又は樹状細胞新生物	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
2B31.Z	組織球又は樹状細胞新生物、詳細不明	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物

表 3. WHO (2025 年 1 月版) の ICD-10 から ICD-11 への 1 対 1 対応表で WHO の Mortality と Morbidity リストで分類に差があるもの

ICD10	ICD10 名称	ICD11	ICD11 名称	WHO 死因分類	WHO 疾病分類
C960	多病巣性及び多臓器型(播種性)ランゲルハンス<Langerhans>細胞組織球症 [レットレル・ジーベ<Letterer-Siwe>病]	2B31.2Z	Langerhans cell histiocytosis, unspecified	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
C964	樹状細胞(補助細胞)肉腫	2B31.Z	組織球又は樹状細胞新生物、詳細不明	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
C965	多病巣性及び単一臓器型ランゲルハンス<Langerhans>細胞組織球症	2B31.2Y	その他の明示されたランゲルハンス細胞組織球症	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
C966	単局性ランゲルハンス<Langerhans>細胞組織球症	2B31.2Z	Other specified Langerhans cell histiocytosis	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
C968	組織球性肉腫	2B31.1	組織球性肉腫	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物
D470*	性状不詳及び不明の組織球性及び肥満細胞性腫瘍	2B31.Z	組織球又は樹状細胞新生物、詳細不明	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物

* 全国がん登録罹患集計の基本分類 A・B 表、および e-Stat の集計項目に含まれていないコード

表 4. がん罹患数 (2020 年診断例) : 性別

ICD-10 準拠				ICD-11 準拠				増減率 (%)
現がん罹患集計部位 (ICD-10 コード)	総数	男性	女性	がん罹患集計用分類	総数	男性	女性	
(全部位 C00-C96)	945,562	535,155	410,404	新生物	973,418	548,402	425,012	2.9
(脳・中枢神経系と髄膜の小計)	22,575	9,220	13,353	脳又は中枢神経系の新生物	22,575	9,220	13,353	0.0
(脳・中枢神経系 C70-C72)	5,730	3,087	2,642					
(髄膜 D32)	9,795	2,715	7,079					
(脳および中枢神経系 D33)	3,626	1,824	1,802					
(髄膜 D42)	634	275	359					
(脳および中枢神経系 D43)	2,790	1,319	1,471					
				骨髄系新生物	19,271	12,177	7,094	NA
				リンパ系新生物	40,525	21,903	18,622	NA
				その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	8,771	4,594	4,177	NA
【基本分類 A 表】								
全部位 C00-C96	945,562	535,155	410,404	悪性新生物	882,276	500,508	381,766	-6.7
口腔・咽頭 C00-C14	22,071	15,504	6,567	口唇、口腔又は咽頭の悪性新生物	22,071	15,504	6,567	0.0
食道 C15	24,580	20,147	4,433	食道の悪性新生物	24,580	20,147	4,433	0.0
胃 C16	109,725	75,163	34,562	胃の悪性新生物	109,725	75,163	34,562	0.0
大腸(結腸・直腸) C18-C20	147,794	82,861	64,932	大腸、肛門又は肛門管の悪性新生物	147,561	82,815	64,745	-0.2
結腸 C18	98,281	51,763	46,518	結腸の悪性新生物	96,868	51,127	45,741	-1.4
直腸 C19-C20	49,513	31,098	18,414	直腸 S 状結腸接合部、直腸の悪性新生物	49,513	31,098	18,414	0.0
(肛門および肛門管 C21)	1,180	590	590	肛門又は肛門管の悪性新生物	1,180	590	590	0.0
				(虫垂の悪性新生物 2B81.Z)	1,413	636	777	NA
膵臓 C25	44,481	22,581	21,900	膵臓の悪性新生物	44,481	22,581	21,900	0.0
肝および肝内胆管 C22	34,774	23,734	11,040	肝臓又は肝内胆管の悪性新生物	34,659	23,663	10,996	-0.3
				(肝臓の血管肉腫 2B56.3 とその他肉腫 2B5F.2)	115	71	44	NA
胆のう・胆管 C23-C24	21,398	11,708	9,690	胆のう又は胆道の悪性新生物	21,398	11,708	9,690	0.0
喉頭 C32	4,615	4,207	408	喉頭の悪性新生物	4,615	4,207	408	0.0
肺 C33-C34	120,821	81,125	39,696	気管、気管支又は肺の悪性新生物	120,821	81,125	39,696	0.0
(気管 C33)	94	56	38	気管の悪性新生物	94	56	38	0.0
(気管支および肺 C34)	120,727	81,069	39,658	気管支又は肺の悪性新生物	120,727	81,069	39,658	0.0
皮膚 C43-C44	23,852	12,421	11,430	皮膚の悪性新生物	23,852	12,421	11,430	0.0
(皮膚の悪性黒色腫 C43)	1,743	879	863	皮膚の悪性黒色腫	1,743	879	863	0.0
(皮膚のその他 C44)	22,109	11,542	10,567	その他の皮膚の悪性新生物	22,109	11,542	10,567	0.0
乳房 C50	92,181	623	91,558	乳房の悪性新生物	92,181	623	91,558	0.0
子宮 C53-C55	28,507	-	28,507	子宮の悪性新生物	28,507	-	28,507	0.0
子宮頸部 C53	10,363	-	10,363	子宮頸部の悪性新生物	10,363	-	10,363	0.0

ICD-10 準拠				ICD-11 準拠				増減率
現がん罹患集計部位 (ICD-10 コード)	総数	男性	女性	がん罹患集計用分類	総数	男性	女性	(%)
子宮体部 C54	17,784	-	17,784	子宮体部の悪性新生物	17,784	-	17,784	0.0
(子宮部位不明 C55)	360	-	360	(子宮の部位不明の悪性新生物 2C78)	360	-	360	0.0
卵巣 C56	12,746	-	12,746	卵巣の悪性新生物	12,746	-	12,746	0.0
前立腺 C61	87,779	87,779	-	前立腺の悪性新生物	87,779	87,779	-	0.0
腎・尿路(膀胱除く) C64-C66, C68	29,150	19,668	9,482	腎又は腎盂の悪性新生物	24,718	16,990	7,728	-15.2
(腎盂を除く腎 C64)	20,101	13,921	6,180	腎の悪性新生物	20,101	13,921	6,180	0.0
(腎盂 C65)	4,617	3,069	1,548	腎盂の悪性新生物	4,617	3,069	1,548	0.0
(尿管 C66)	4,150	2,539	1,611	(尿管の悪性新生物 2C92. Z)	4,150	2,539	1,611	0.0
(その他部位不明の泌尿器 C68)	282	139	143	(尿路の悪性新生物 2C9Z)	282	139	143	0.0
膀胱 C67	23,191	17,430	5,761	膀胱の悪性新生物	23,191	17,430	5,761	0.0
甲状腺 C73	16,436	4,512	11,924	甲状腺の悪性新生物	16,436	4,512	11,924	0.0
悪性リンパ腫 C81-C85, C96*	35,945	19,211	16,734	-	-	-	-	NA
白血病 C91-C95*	14,282	8,390	5,892	-	-	-	-	NA
多発性骨髄腫 C88, C90*	7,267	3,918	3,349	-	-	-	-	NA
脳・中枢神経系 C70-C72*	5,730	3,087	2,642	-	-	-	-	NA
【基本分類 B 表】								
(全部位 (上皮内がん含) C00-C96, D00-D09)	1,056,246	586,451	469,792	悪性新生物 (上皮内がん・脳等一部良性含)	1,084,085	599,689	484,392	2.6
全部位 (上皮内がん含) C00-C96, D00-D09	1,056,246	586,451	469,792	悪性新生物 (上皮内がん含)	992,943	551,795	441,146	-6.0
食道 C15, D001	27,093	22,135	4,958	食道の悪性新生物 (上皮内がん含)	27,093	22,135	4,958	0.0
(食道 D001)	2,513	1,988	525	(食道の上皮内がん 2E60. 1)	2,513	1,988	525	0.0
大腸 C18-C20, D010-D012	186,369	107,691	78,677	大腸、肛門又は肛門管の悪性新生物 (上皮内がん含)	185,028	107,084	77,943	-0.7
結腸 C18, D010	126,245	69,630	56,615	結腸の悪性新生物 (上皮内がん含)	124,832	68,994	55,838	-1.1
(結腸 D010)	27,964	17,867	10,097	(結腸の上皮内がん 2E61. 0)	27,964	17,867	10,097	0.0
直腸 C19-C20, D011-D012	60,124	38,061	22,062	直腸の悪性新生物 (上皮内がん含)	60,124	38,061	22,062	0.0
(直腸 S 状結腸移行部 D011)	2,828	1,848	980	(結腸の上皮内がん 2E61. 0&直腸 S 状結節 XA33J5)	2,828	1,848	980	0.0
(直腸 D012)	7,783	5,115	2,668	(直腸の上皮内がん 2E61. 1)	7,783	5,115	2,668	0.0
(肛門および肛門管 C21, D013)	1,252	619	633	肛門又は肛門管の悪性新生物 (上皮内がん含)	1,252	619	633	0.0
(肛門管の上皮内がん D013)	72	29	43	(肛門管の上皮内がん 2E61. 2)	72	29	43	0.0
肺 C33-C34, D021-D022	123,480	82,166	41,314	気管、気管支又は肺の悪性新生物 (上皮内がん含)	123,480	82,166	41,314	0.0
(気管 D021)	0	0	0	(気管の上皮内がん 2E62. 1)	0	0	0	0.0
(気管支および肺 D022)	2,659	1,041	1,618	(気管支・肺の上皮内がん 2E62. 2)	2,659	1,041	1,618	0.0
皮膚 C43-C44, D030-D049	29,818	15,086	14,731	皮膚の悪性新生物 (上皮内がん含)	29,818	15,086	14,731	0.0
(上皮内黒色腫 D03)	347	135	212	(上皮内黒色腫新生物 2E63)	347	135	212	0.0

ICD-10 準拠				ICD-11 準拠				増減率
現がん罹患集計部位 (ICD-10 コード)	総数	男性	女性	がん罹患集計用分類	総数	男性	女性	(%)
(皮膚のその他 D04)	5,619	2,530	3,089	(皮膚の上皮内癌 2E64)	5,619	2,530	3,089	0.0
乳房 C50, D05	103,773	688	103,085	乳房の悪性新生物 (上皮内がん含)	103,773	688	103,085	0.0
(乳房 D05)	11,592	65	11,527	(乳房の上皮内がん 2E65)	11,592	65	11,527	0.0
子宮 C53-C55, D06	50,890	-	50,890	子宮の悪性新生物 (上皮内がん含)	50,890	-	50,890	0.0
子宮頸部 C53, D06	32,746	-	32,746	子宮頸部の悪性新生物 (上皮内がん含)	32,746	-	32,746	0.0
(子宮頸部 D06)	22,383	-	22,383	(子宮頸部の上皮内がん 2E66)	22,383	-	22,383	0.0
膀胱 C67, D090	43,279	33,803	9,476	膀胱の悪性新生物 (上皮内がん含)	43,279	33,803	9,476	0.0
(膀胱 D090)	20,088	16,373	3,715	(膀胱の上皮内がん 2E68)	20,088	16,373	3,715	0.0

括弧内は、基本分類表の集計項目ではないが集計値の比較のために集計した
 *ICD-11 では悪性の新生物に限定されず良性の新生物を含めた分類項目となったもの
 なお、性別不詳の登録があるため、総数は必ずしも男性と女性の合計と一致しない

表 5. 造血器腫瘍の ICD-10 と ICD-11 との対応

	ICD-11 準拠			計
	骨髄系新生物	リンパ系新生物	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	
ICD-10 準拠				
悪性リンパ腫 C81-C85,C96	<10	30939	5004	35945
多発性骨髄腫 C88, C90	0	7267	0	7267
白血病 C91-C95	8604	2319	3359	14282
その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>, 脾 C261	0	0	17	17
慢性骨髄増殖性疾患 D471	741	0	0	741
骨髄異形成症候群 D46	9924	0	0	9924
リンパ組織, 造血組織及び関連組織の性状不詳又は不明のその他の明示された新生物<腫瘍> D477	0	0	102	102
リンパ組織, 造血組織及び関連組織の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>, 詳細不明 D479	0	0	289	289
計	19271	40525	8771	68567